

福島医大病院ニュースレター

編集・発行/附属病院患者サービス向上委員会

〒960-1295 福島市光が丘1番地 / TEL (024) 547-1111 ホームページ <http://www.fmu.ac.jp/byoin/index.php>

永年勤続表彰 受賞者挨拶

平成 27 年 11 月 30 日、本学に 30 年以上にわたり勤務された方々に対し、永年勤続表彰が行われました。今年度は 13 名の方々が表彰を受けました。

- 放射性同位元素研究施設 専門医療技師 鈴木 俊幸
- 輸血・移植免疫部 専門医療技師 川畑 絹代
- 材 料 部 主任技能職員 佐藤 昭彦
- 看 護 部 副部長 渡邊美恵子
- “ 主任看護技師 田中 幸子
- “ 副看護師長 鈴木ミモト
- “ 主任看護技師 本田なみこ
- “ 主任助産技師兼看護技師 鹿戸佳代子
- “ 副看護師長 山本久美子
- 医事課（給食管理係） 主任調理師 安田 孝司
- “ 主任調理師 須田喜恵子
- 会津医療センター看護部 看護師長 遠山恵美子
- “ 主任看護技師 原 千賀子

表彰を受けた方々のうち、代表の方のご挨拶を掲載いたします。

輸血・移植免疫部 専門医療技師 川畑 絹代

この度、永年勤続で表彰して頂きました。

臨床検査技師として採用され、県立病院や保健所などで検査業務に従事したのち、医大病院に配属となり15年が経ちました。これまで仕事を続けてこられたのは、多くの方々の支えがあったのことに感謝しております。現在は輸血・移植免疫部に所属し、輸血を必要とされる患者さんの血液型検査を行い、適合する血液製剤を準備したり、造血幹細胞移植や臓器移植のための検査・細胞管理などを行っています。医療の進歩に伴い、検査の業務も多様化し、複雑になってきています。直接患者さんに接する機会は少ないのですが、チーム医療を担う一員として、これからも、患者さんの治療に貢献できるよう、努めていきたいと思っています。



材料部 主任技能員 佐藤 昭彦

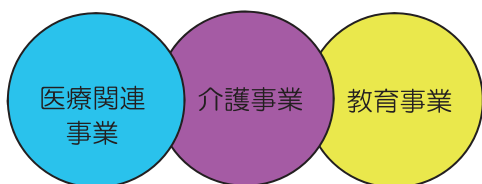
私は、昭和 60 年からこの福島県立医科大学附属病院にお世話になり、無事 30 年勤務することができました。この 30 年の間に、耳鼻咽喉科、手術部、そして材料部というように、技能員としてやりがいのある仕事をさせていただきました。

材料部は、診察・治療・手術等に使用された医療器材を洗浄・滅菌し、その器材を各所属の病棟・外来・手術室へ滞りなく届ける役割を果たしております。

私たちの仕事は、直接患者さんたちの顔を見る事はありません。しかし患者さんに安心して治療を受けていただくために、常に患者さんの立場に立ちこれからも業務に精進して参ります。

- 第33号のなかみ
- 1 ページ …… ○永年勤続表彰 受賞者挨拶
 - 2 ページ …… ○永年勤続表彰 受賞者挨拶
○がん看護外来が始まりました
 - 3 ページ …… ○病気のため知識
○病院食堂アンケート結果について
 - 4 ページ …… ○リレー通信「けやきの会」
○ふくしま国際医療科学センター整備について

全国展開するニチイの3つの事業



株式会社 ニチイ学館

福島市栄町 6-6 UNIX ビル 3F
Tel 024-524-2835 Fax 024-522-0306

マチのほっとステーション LAWSON

ローソン福島県立医科大学附属病院店（エレベーターホール隣）
ローソン福島県立医科大学店（7号館内）
ローソン福島県立医科大学会津医療センター店

看護師としてのこの30年間を顧みますと、患者様やそのご家族との出会いによる喜びや悲しみ、業務遂行上の厳しさなど、様々な思いを味わってきました。この味わいこそが30年間勤め続けられた“原動力”であったと思います。

また、昭和62年の杉妻町から光が丘への移転や、平成23年3月の東日本大震災やそれに伴う原発事故の対応など、福島医大病院における大きな変革も経験してきました。そして平成28年には「ふくしま国際医療センター」の「ふくしまいのちと未来のメディカルセンター」が完成し、県民の健康、福島県の医療を長きに渡って護るというさらなる使命を担います。

これからも福島医大病院において、県民・患者様のために、力を尽くしていきたいと思っています。



去る平成27年11月30日、学内にて30年永年勤続の表彰を頂きました。昭和60年、看護師(当時は看護婦)になりたての私は3年上の先輩が大ベテランに見え、婦長や総婦長となるとさらに遠い存在でした。いざ自分がその年齢に近づくと見合ったキャリアが伴っているのか心配になります。あの頃に比べ、現在は治療だけでなく安全管理や感染対策、地域のネットワーク、医療制度等、医療を取り巻く環境は多岐にわたり格段に進歩したと感じます。その中で仕事を続けてこられたのは職場の方々や家族、そして今まで関わらせて頂いた患者様に育てられたおかげと感謝しております。退職までの時間を少しでも患者様のお役に立てるよう、また後輩が成長していけるよう勤めて行きたいと思っています。ありがとうございました。

「食べることは生きること、食べてもらうことが一番のコンセプト」

これは、ある研究発表での私の心に残った言葉です。

私の場合は学校給食を経て医大勤務になり調理の仕事に従事してきましたが、学校給食とは違い病院食は治療の一環であり、アレルギー対応や様々な食種による別作りなど、苦勞しながらも一生懸命に作ってきました。

私の家族の入院生活・介護という経験をしたことで、以前よりも患者に対する思いやりの気持ちを強くもてるようになりました。

今後も食欲のない方、食べるのが困難な方に対して食べてもらう事を一番に考えて食べやすい食事作りに努力し、衛生的で安全な患者さんに喜ばれる食事の提供をしていきたいと思っています。

がん看護外来が始まりました

本院は都道府県がん診療連携拠点病院の指定を受けています。その診療機能強化のため「がん看護カウンセリング(がん看護外来)」を整備することになりました。2015年10月1日から予約制でがん看護外来を実施しています。

がん看護外来とは、がん看護専門看護師、緩和ケア認定看護師等のがん看護に関する専門的な知識を持った看護師が、がんと診断された患者さんやご家族に対して行うカウンセリングで、患者さんの身体症状や心理・社会的苦痛を軽減するよう支援していきます。状況に応じて、医師からの説明(Informed Consent)の場に同席し、現状理解の促進、治療や療養生活に関する情報提供、お気持ちの傾聴等を行っています。がんの診断時から、患者さんがその人らしく安心して生活できるよう、がんに向き合う力を高め、次へのステップにつなげられることを目指しています。カウンセリングは通常個室で行い、細やかな支援ができるよう1時間程度の時間を確保しており、患者さんやご家族のニーズに応じては継続的に対応しています。これまでも「治療の選択で悩んでいる」「副作

緩和ケアセンター がん看護専門看護師 **保坂 ルミ**

用が心配」「不安で眠れない」「緩和ケアについて知りたい」「家族ができることを教えてほしい」等様々なご相談がありました。これらのことは、医師、外来・病棟看護師や専門・認定看護師、医療ソーシャルワーカー等と連携・協働を図りながら進めています。お困りの患者さんやご家族がいらっしゃるようでしたらご連絡ください。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

《お問い合わせ先》 臨床腫瘍センター 内
相談支援センター 024-547-1088(直通)

病衣・タオル・紙おむつ・日用品

手ぶらで入院・手ぶらで退院

アイレンタル



お申込・お問合せ先：レンタル受付窓口

024-548-8777

* 院内1階、院外処方箋FAXコーナー横
月～土曜日 9:00～17:00 (日祝祭日休業)



株式会社アイシステムオフィス

耳鼻咽喉科・頭頸部外科 副部長 松塚 崇

今年も花粉症の季節がやってまいりました。花粉症は学術的には季節性アレルギー性鼻炎・結膜炎と言い、抗原は日本ではスギ花粉が多く次いでイネ科、キク科の花粉が多いです。鼻の粘膜をみますと蒼白な浮腫状で腫脹しているのが典型的で、炎症を伴い発赤している場合もあります。

花粉症の治療は主に投薬となりますが、花粉情報に注意し飛散の多い時にはマスクやメガネを使うなどの抗原の回避も重要です。例年、強い花粉症症状を示す方には初期療法をお勧めします。重症度(表1)に応じて第2世代抗ヒスタミン薬、ケミカルメディエーター遊離抑制薬、抗ロイコトリエン(LTs)薬、抗プロスタグランジン(PG)D2薬、抗トロンボキササンA2(TXA)薬、Th2サイトカイン阻害薬、ステロイド薬、血管収縮薬を投与します(表2)。手術療法は保存療法で改善しない人が適応でこれまで鼻閉の改善を目的とした手術が主でしたが、最近は鼻漏の改善を目的とした手術も始めています。最近の話題としては免疫療法の一つとして舌下免疫療法があります。花粉症には様々な治療がありますのでご相談ください。

表1 各症状の程度(鼻アレルギー診療ガイドライン2016より改変)

		程 度			
		+	2+	3+	4+
種 類	くしゃみ発作	1日平均 1~5回	6~10回	11~20回	21回以上
	鼻 汁	1日平均 1~5回	6~10回	11~20回	21回以上
	鼻 閉	□呼吸はない	□呼吸が 1日のうち時々	□呼吸が 1日のうち かなりの時間	1日中完全に つまっている

表2 季節性アレルギー性鼻炎の治療(鼻アレルギー診療ガイドライン2016より抜粋)

重症度	初期療法	(+) 軽症	(2+) 中等症	(3+, 4+) 重症・最重症	A: 第2世代抗ヒスタミン薬 B: 遊離抑制薬 C: 抗LTs薬 または 抗PGD2・TXA薬、 Th2サイトカイン阻害薬 D: 第2世代抗ヒスタミン薬・ 血管収縮薬 配合剤 E: 鼻噴霧用ステロイド薬 F: 血管収縮薬点鼻薬 G: 経口ステロイド薬	
病型		くしゃみ・鼻漏型	鼻閉型・完全型	くしゃみ・鼻漏型		鼻閉型・完全型
治療	A B C のいずれか一つ	A (必要に応じてE追加)	A + E	A + C + E もしくは D+E	A + E	A+C+E もしくは D+E 必要に応じて F、G
		抗ヒスタミン薬または遊離抑制薬点眼		抗ヒスタミン薬または遊離抑制薬、ステロイド点眼		
		手術				
		アレルギー免疫療法				
		抗原除去・回避				

病院食堂アンケート結果について

病院経営課

福島県立医科大学附属病院の周辺は、歩いて行くことができる食堂・レストランがありません。よって、当院の病院食堂は外来患者さんや病院スタッフにとって重要な位置付けとなっています。

これまでも食堂に関しては、改善を求める声が多くありました。それらを踏まえ、食堂を運営している福島県庁消費組合は、4月からメニュー等のリニューアルを行うため、外部のコンサルタントを入れ検討を始めました。

今回のアンケートは、改めて病院食堂に求められるニーズを把握し、リニューアルの一助とするために実施したものです。短期間ではありましたが、1,286人の貴重な意見を伺うことができました。内容を総括すると医大だからこそ健康的なメニューの提供を多くの方が望んでおり、利用スペースについては病院スタッフと一般利用者の食事スペースを分けて欲しいといった意見が多くありました。

病院食堂で提供する食事は、患者さんにとって治療の一部、そして病院で働く方々の健やかな食生活形成の一翼を担います。心身共に健康かつ元気になれる病院食堂のリニューアルを是非期待しましょう！

期 間：平成27年12月1日～25日

回答数：1,286人

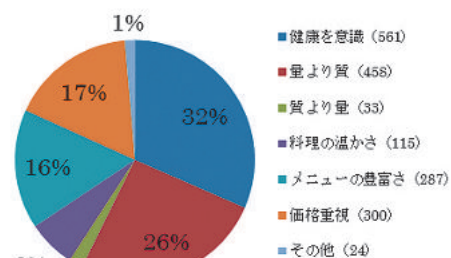
投函者：患者45%、患者家族10%、教員5%、
学生3%、職員等35%、その他2%

性 別：女性60%、男性40%

年代別：10代2%、20代16%、30代22%、
40代20%、50代14%、60代26%



あなたが病院食堂に求めるもの



[アンケート結果(一部抜粋)]

リレー通信 病院ボランティア「けやきの会」

「ボランティアの一人、患者の一人として」
佐藤 和子

平成 28 年 2 月 17 日は、私にとって節目の年の予約診療日である。9 時の予約に合わせて病院の玄関に近づくと、緑のエプロン姿のボランティアが二人、寒風の中、立っていた。私が「おはようございます。」と挨拶をすると、「あらっ、おはようございます。」と、にこやかに明るい声が返ってきた。ロビーに入ると、もう一人のボランティアが車椅子の患者さんのお手伝いをしていた。私は、受付を済ませ外来へ。検査のオーダー表を受け取り、採血、CT、マンモグラフィーと順番に受け、外来に戻った。外来の待合室、検査の待合室など、どこも患者さんの不安そうな息遣い、表情などが印象的である。

10 年前、病気が見つかった私も、不安で頭の中はいろいろ

と錯綜して考えがまとまらなかった。そんな中、落ち着きを取り戻し、少しは頭の整理がついてきて考えたことは、お医者さんが病気を診断してくれ、私に合った治療、投薬をしてくれる。あとの治療は自分の精神力だ、希望を持って、と自分に言い聞かせつつ病気と向き合い、満 10 年を迎えたのである。

医大病院ボランティア活動 18 年目の今、高い理念などは持てないが、自分の体験を生かしつつ、患者さんに寄り添える活動、患者さんの病院への要望などの橋渡し役に努めたいと思うのである。“出来ることを出来る範囲で明るく”をモットーに、病院ボランティア活動を自分の生活スタイルの一つとして続けていくつもりである。

ふくしま国際医療科学センター整備について

小児科

～みらい棟 5 階 こども医療センター
プレイルームとイベントホール～

長期入院治療が必要な慢性疾患の患者さんが多い小児病棟では、こどもらしい遊びと生活の場となるプレイルームの必要性が高くなります。みらい棟のこども医療センターには西病棟に 1 つ、東病棟に 2 つのプレイルームを整備します。

プレイルームでは、患者さんが自然体で過ごせ、自分達で自由に遊びを選択して活動できるような空間づくりを目指しています。また、保育士が年齢や個々の発達に応じた対応ができるようにしています。点滴を持ち込んでも安全に遊べる空間がありますし、医療スタッフから見守りやすいオープンスペースにしています。東病棟のプレイルームの一つは高学年用で、学齢期の子ども達が自分の時間を持てるように、また、学習支援も受けられるようにしています。

西病棟には広いイベントホールを整備します。ここに入院患

者さんが集まり、「お花見・団子づくり」や「クリスマス会」、「夏祭り」などのイベント、ボランティアの方々による「生演奏会」などの発表会を定期的に行います。また、離乳食の進め方や食育の指導、慢性疾患の患者さんへの栄養相談会、疾患の勉強会などを催す予定ですので、患者さんやご家族がこどもの成長、養育、疾患などについて理解を深めることができます。

これらプレイルームとイベントホールを有効活用して、今後ますます入院患者さんの生活の質を向上させていきたいと思えます。



すべてを地域のために
東邦銀行

ご利用・お問い合わせは **福島医大病院支店**

窓口営業時間：平日午前9時から午後3時

電話 024-548-5331 (受付時間:平日午前9時から午後5時)

スターバックスコーヒー福島県立医科大学附属病院店

営業時間 平日 7時～20時
土日祝 9時～19時

アメリカ シアトル生まれのスペシャルティコーヒーストア。高品質のアラビカ種コーヒー豆から抽出したエスプレッソがベースのバラエティ豊かなエスプレッソドリンクやペストリー、サンドイッチをお楽しみいただけます。

